
悠久の初恋

彩夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悠久の初恋

【コード】

N0240Z

【作者名】

彩夏

【あらすじ】

あまりにも穏やかなこの恋の始まりは、黙々と作る背景と、音量の小さなテノールだった。

声変わりってやつだろうか？
よりによって、今。この時期に。

「合唱始めるよ」

「ちよつと男子さあ、もう時間取れないんだからまじめにやってくれない!？」

「女子うるせえよ!」

「まじめにやらないからでしょ!」

「ちよつと!始めるよ!」

春川は、辛くないのだろうか？

伴奏者として一人ポツリ、ソプラノとアルトだけが異様に響くこの歌を、彼女はどう思っているのだろう。

この、ボロボロと崩れていく古城の様な歌を。

彼女は何も言わずに、ただ黙々とオルガンに指を躍らせる。

ただ、黙々と。

当たり前が存在するような背景を、彼女は一人作っているのだ。たとえ主役が背景を蹴散らすような道化師達だとしても。

「おい、今日も合唱練習あんの？」

あるに決まってるだろう。

「あんじゃねーの?めんどいけど」

お前だけが面倒なわけじゃないだろ。

「今日、帰っちゃうか？」

おい、何言ってるんだよ。

「あ、それいいな！挨拶したら速攻帰る！これ決定！」

「南もそうするだろ？」

しねえよ。

「……俺は、歌うな」

それから、俺はゆっくりと孤立していった。

本当にゆっくりと、穏やかな波に打ちあげられていく魚の様な感覚だった。

悲しいとか、寂しいとか、そんな感情は一切なかった。

春川の奏でるメロディーに、知らず知らず癒されていたのかもしれない。

合唱に参加する男子の人数は日々を追うごとに減っていったけれど、彼女は素知らぬ顔でオルガンを弾く。

いつの間にか男子は半分に減り、迫力も何もなくなったが、その分彼女の音が心地よく響く合唱となった。例えるのなら純白のハンカチ。子どもの時からのお気に入りのタオルケット。

「おい、男子どこ行ったんだよ？」

「あ、先生」

「先生、男子帰っちゃったんですよ」

「どうしますかあ」

女子特有の「私たちはまじめにやっていますよ」アピールに、小さな笑いがこみ上げた。

視線をふとあげる。すると、春川が俺の一連のしぐさを見つけていた。

「みなみ」口元がそう動いた気がして、俺は騒がしい女子の群れを横切ってオルガンの近くの椅子へ腰かけた。

「南の声、あんまり聴こえないね」

少し傷ついた。チクリと刺されるような痛み。不甲斐なさ、情けなさが主成分。

「声変わりしてるんだ」

「そう」

それから彼女は曲を弾き始めた。いつもよりもゆっくりと、一つ一つの音を確かめるように。なめらかな曲線を描くような彼女の指先に、小さく胸が鼓動していた。

「春川」

ふと出た言葉は彼女の名前だった。別に呼び掛けたわけでもなかったのだが、顔を上げ、次の言葉を待つ春川の不思議そうな表情に自然と言葉がわき立った。

「春川、俺、春川の伴奏すごく好きだ」

少しだけ顔をほころばせ、春川はうなずいた。

「ありがとう、南。私、南の声小さいけど、南の声好きだよ。低くなってきてるけど、まっすぐに響いてて」

俺も同じようにうなずいた。

「ありがとう」

今思い返すと、それが俺の初恋だったのだろう。

そして、初恋は実らないなんて嘘であった。

彼女の少し大きくなったお腹に手を当てると、新しい小さな命が脈打っていた。

「ねえ、俺と結婚して幸せ？」

春川の姓ではなくなった彼女があの日と同じ顔でうなずいた。

「幸せじゃないなんて言ったらこの子に怒られちゃうわ」

あの日少女は、母親の顔をしてそう言った。

あの時よりも一層、彼女を愛しく思う。彼女を腕に抱き、「愛している」と、歌うように囁いた。

「相変わらず、まっすぐね」

俺は黙って、幸せをかみしめた。

桜が淡いピンク色を散らせ、彼女の髪に小さな花が咲いた。
この時が悠久に続けばいいと俺は笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0240z/>

悠久の初恋

2011年11月30日23時48分発行